

プログラムに応募した理由：

- ①今まで旅行でしかアメリカに行ったことがなかったのでアカデミックな目的で滞在してみたかったから。
- ②比較的安い費用でスタンフォード大学にて10日間生活できることが魅力に感じたから。
- ③アメリカ大統領選挙がきっかけで、同世代のアメリカの学生は政治に対してどのような考えを持っているか知りたかったから。

プログラムの良かった点：

- ①スタンフォード生と密に過ごすことができたことで多くの刺激を受けられたこと。
- ②海外における人脈の形成。
- ③GoogleやMetaの企業訪問を通じて、理系の分野で活躍されている方々のお話しを聞けたこと。これは文系の自分の視野を大きく広げてくれた。
- ④大学の授業に参加させてもらったこと。
- ⑤大学生活のみならず、サンフランシスコやサンタクルーズへの観光に行けたこと。

プログラム基本情報

食事について

各自に配布された食堂カードを使用してダイニングホールで食事をとった。ただ自分の寮のダイニングホールでは9:00には朝食が終わってしまうので、9:00以降は他の寮のダイニングホールに行くなどしていた。

プログラムの問題点：

寮に入るときは中にいる人に開けてもらわなければならぬので、少しハラハラしたが、談話室の方から入れば誰かしら中にいることが分かったので何とかなった。

派遣体制について

LINEのグループにSJECオフィサーも参加しながら情報共有をしてもらい、体制は整っていた。特に、飛行機の時間をまとめた表を共有してもらえたのが大変助かった。表を見ながら同じ便のメンバーと空港で待ち合わせして搭乗できたので安心だった。

かかった費用

航空費：15万円
雜費：50ドル
お土産：100ドル

2月 7日(金) 1Day

時間	コンテンツ
13:40	サンフランシスコ空港到着
15:30	指定場所でホストの子と対面
17:30	Welcome ceremony



【内容】

事前に決められていたグループごとにスタンフォード生の運転する車に乗って大学へ向かった。Old Unionという建物でSJEC officersが迎えてくれ、ホストの学生とも対面した。自分の泊まる寮に荷物を置いてからウェルカムセレモニーに参加した。セレモニーでは食堂カードやメンバー紹介のパンフレットが配布され、ウェルカムビデオも鑑賞した。

【感想】

スタンフォード生の皆さんがあくまで温かく迎えてくれ、すぐに打ち解けることができた。ウェルカムセレモニーでは今後のロジスティクスなどを説明してくれて助かった。また、ベッドセットも自分が泊まる寮に用意してあったのが良かった。

2月 8日(土) 2Day

時間	コンテンツ
8:30	SFへ出発
11:00	Ghirardelli Square
12:00	Golden Gate Bridge
13:00	近くのカフェで昼食
15:00	Pier 39



具体的なプログラム内容やエピソード、感想など

【内容】

この日は一日中サンフランシスコで過ごした。事前に決められた班で行動して、みんなが行きたいところに SJECのオフィサーが連れて行ってくれた。移動手段はバスで、市場やゴールデンゲートブリッジ、チャイナタウンや Pier 39に連れて行ってもらった。夜は大学のダイニングホールで自分の班のメンバー達と夕飯を食べた。

【感想】

この日は天気が良かったので移動しやすかった。カフェで食べた昼食の費用もプログラム費用から出ているそうで有り難かった。オフィサーの 2人が私達が行きたい場所の要望をベースに観光スポットに連れて行ってくれた。

2月 9日(日) 3Day

時間	コンテンツ
12:00	Campus Tour
15:00	Super Bowl

具体的なプログラム内容やエピソード、感想など



【内容】

朝は友達と大学内のカフェで朝食をとった。その後のキャンパスツアーでは、美術館、サボテンの庭、ブックストアなどに連れて行ってもらった。最後に寮に集まってスーパー・ボールをスクリーン越しに観戦した。夜は他の寮に何人かで集まっておしゃべりした。

【感想】

美術館では、絵の解説をしてもらったことで、ただ見るだけでなく思考を巡らせながら観察することができた。キャンパスツアーを通して、スタンフォード大学はテクノロジーの分野のみならず、リベラルアーツにも力を入れていることが感じ取れた。また、スーパー・ボール観戦では、今までではアメリカンフットボールにあまり親しみがなかったものの、これを機にアメリカのカルチャーを経験することができたのが良かった。

2月 10日(月) 4Day

時間	コンテンツ
10:30	Google visit
14:30	Academic meeting
18:00	Pizza party



具体的なプログラム内容やエピソード、感想など

【内容】

午前中はグーグル訪問をした。昼食を取りながらグーグルで働くかれている方々のお話を伺うことができた。午後は、週末のプレゼンテーションに向けたアカデミックミーティングを行った。私の班のテーマは「若者の政治参加」で、2人のオフィサーが事前知識を紹介した後、実際に大学で選挙キャンペーンに取り組んでいる学生を交えて、インタビュー形式で経験談を共有してもらつた。

【感想】

グーグルでインタビューを受けて頂いたのは主に日本人の方々か、日本に関わりのある方々で、今までのキャリア人生や現在取り組んでいる仕事内容について多くのことを教えて頂いた。アカデミックミーティングでは、アメリカの大学では学生がどのように選挙運動にコミットしているのかを知ることができ、日本の大学との違いを感じた。

2月 11日(火) 5Day

時間	コンテンツ
9:45	Academic meeting
12:00	Class visit: International Relations
13:30	Class visit: Maths
15:00	Class visit: Computer Science
22:00	In-N-Out Burger



具体的なプログラム内容やエピソード、感想など

【内容】

この日はアカデミックミーティングをした後、大学の授業に参加した。まず、international relationsの“Cycle of Suffering: Why Military Retaliation Provokes Rather Than Deters”の発表を聞いた。その後 Mathとcomputer scienceの授業にも参加した。夜は大学を出てファストフード屋さんで夜食をみんなで食べに行つた。

【感想】

全体の授業を通して感じたことは、先生と受講者とのインタラクションが非常に活発だということだ。例えば最初に参加した international relationsでのプレゼンテーションでは、参加者がプレゼンターに対して挑戦的な議論を投げかける様子が多々見受けられた。知識を一方的に受容するだけでなく、思考を働かせながら問い合わせを見出す学生の姿に刺激を受けた。他に mathsとcomputer scienceという理系の授業にもあえて参加してみた。数学はほぼ理解できなかつたが、computer scienceの授業ではseed nodeとネットワークの関わりについて知ることができ新鮮だった。

2月 12日(水) 5Day

時間	コンテンツ
10:00	SLAC Tour
14:00	The Ishiba-Trump Summit and Japan's New political Power Balance
15:00	Academic meeting
16:00	Class visit: Law school
19:00	Stanford medicine orchestra concert

具体的なプログラム内容やエピソード、感想など



【内容】

午前中はSLAC国立加速器研究所を訪れた。これは国が所有しつつもスタンフォード大学が運営している国立研究所である。最初に加速器を見せてもらい、その後は実際にプロジェクトに取り組んでいるラボも見学した。午後はアカデミックミーティングをした後、ロースクールが開講している税制についての授業に参加させてもらった。夜は、メディシンスクールによるオーケストラのコンサートを鑑賞した。

【感想】

SLACには、世界中の科学者がその加速器を実験に使用するために集まる。しかし、それぞれのプロジェクトチームはラボを使用できる時間が限られているため、かなりタイトなタイムスケジュールで実験に取り組むという話が印象的だった。ロースクールの授業は専門用語が多く理解が難しかったが、unrealized gainsの話をしていることは分かった。

2月 13日(木) 7Day

時間	コンテンツ
10:00	Meta company 訪問
3:30	Academic meeting
4:45	Conversation with Dr. Alice Siu
19:00	Interview night



具体的なプログラム内容やエピソード、感想など

【内容】

午前中はMeta社に訪問した。SJECの元オフィサーが現在働いており、その方が会社を案内して下さった。最初に職場の方々のお話を聞いたり学生からの質問に応えて頂いた。その後 Metaの商品の説明を受けながら実際に手に取らせて頂いた。最後にメタ社の敷地内を案内してもらった。午後は大学でプレゼンテーションの準備を進めた。大学の先生にインタビューさせて頂いたり、夜にはinterview nightでスタンフォード生をお招きして選挙に関する質問をした。

【感想】

自身にとってはこの日が一番印象深い日であったと感じている。まず、Metaで働いている方の一人が、ここで働いている人たちは、会社の名前ではなく自分が好きなことを追求しているとおっしゃっており、ご自身も自分が得意なことは何かを実験しながら見つけ出したとお話しされていた。この言葉が、これからキャリアを考えていく上で、私自身にも影響を与えた気がした。また、interview nightではスタンフォード生に政治について質問する機会を得ることができた。アメリカには様々なバックグラウンドを持つ人々がいることから、どのような政策に関心があるのかは若者の中でもそれぞれ異なることが分かった。

2月14日(金)8Day

時間	コンテンツ
12:00	Academic Meeting
15:00	Oval Picnic
17:00	Explore University Ave



具体的なプログラム内容やエピソード、感想など

【内容】

アカデミックミーティングでプレゼンテーションの準備を進めた後、大学の敷地内にある広場でピクニックをした。ボードゲームをしたり、水風船やフリスビーで遊ぶなどみんな思い思いに過ごした。その後は、大学の周辺の街に繰り出して夕食をとった。

【感想】

この日は午後からの活動だったので、朝はゆっくりできた。連日一日中活動していたのでみんな疲れが出始めていただろうが、この日はゆったりとした時間を過ごすことができた。

2月15日(土) Day9

時間	コンテンツ
12:00	Academic presentation finalization
14:30	Final Presentation
19:00	After Party + Karaoke

具体的なプログラム内容やエピソード、感想など



【内容】

アカデミックプレゼンテーションの最終確認を行った。スクリプトを事前に準備し、実際にスライドを動かしながら練習した。ファイナルプレゼンテーションでは、原子力発電、宗教、ポップカルチャー、政治など多岐にわたるテーマについての発表があった。最後はカラオケパーティーでした。

【感想】

1週間の集大成となるファイナルプレゼンテーションは、大きな会場で行ったため少し緊張もしたが、他の班の発表を聞けたりと非常に楽しかった。どの班もスライドのデザインから話しか方まで、オーディエンスを惹きつけるための工夫をしていてプレゼンテーションスキルも学ぶことができた。中には実際にアプリを作った班もあり非常に面白いファイナルプレゼンテーションだった。最後のカラオケパーティーでは、なぜかスタンフォード生も J-POPを知っていたりとかなり驚かされた一方、日本の歌を知ってくれていて嬉しかった。

2月16日(日) Day10

時間	コンテンツ
9:00	Field Trip 2: Santa Cruz
19:00	Campfire Night

具体的なプログラム内容やエピソード、感想など



【内容】

朝から夕方までSanta Cruzの遊園地で過ごした。フリークアスでプログラムを組んでもらったので、アトラクションは乗り放題だった。遊園地はビーチ沿いにあったので、一通り楽しんだらみんなビーチに集まって写真を撮ったりしていた。夜はキャンプファイヤーをしながらみんなでマシュマロを焼いたり歌ったりお喋りしたりしてプログラムの最後を締めくくった。

【感想】

この日はプレゼンテーションも終わり、沢山遊んだ1日だった。アメリカのジェットコースターは中々スリリングなもので、怖いと楽しいの気持ちが半々だった。キャンプファイヤーでは、一人一人 SJECに対する思いを言う場面で、プログラムが終わってしまうという実感が急に湧き、思わず目頭が熱くなった。きっと、たったの10日間という短いプログラムの期間でこれほどまで SJECのメンバーと仲良くなれると思わなかったからかもしれない。とても幸せなプログラム最後の時間を過ごせた。

2月17日(月) Day11

時間	コンテンツ
10:00	ホストと街に繰り出して朝食をとる
13:00	出発
15:00	搭乗



具体的なプログラム内容やエピソード、感想など

【内容】

最終日は出発までの時間をホストの子と一緒に過ごした。大学の外に出て、カフェレストランで朝食を一緒に食べた。その後、街の中を散歩しながら大学に戻った。ブックストアでお土産を購入し、空港へ出発した。

【感想】

プログラム期間中はホストとはタイムスケジュールが中々合わないため、同じ部屋に寝泊まりさせてもらいつつも、実際はあまり時間を共にできなかった。なので、二人きりで過ごせたこの最終日はとても貴重だった。好きな映画や将来の夢など多くのことを語り、短いながらも密度の濃い時間を過ごせた。

今後参加される方へのメッセージ

私は、もし今の自分に「人生で一番幸せだった時間は？」と聞かれたら、SJECでの時間が真っ先に思い浮かぶかもしれません。それほど、このプログラムから受け取ったものは大きかったのだと思います。

私がこのプログラムで得たものは「人脈」と「情熱」です。まず、このプログラムで出会ったスタンフォード生や日本からの参加者の皆さんとは、十日間という短い期間でありながらも朝から晩まで時間を共にしたことで、非常に仲が深まると感じています。これからも、連絡を取り合いながらここで出会った仲間との関係を大切にしていきたいと思います。

また、スタンフォード大学での学生生活を目の当たりにし、自身が失いかけていた学問に対する情熱を再び取り戻した気がしました。私が出会ったスタンフォード生を見ていると、みんな自分の好きなものに対して情熱を持って取り組んでおり、それを突き詰めていった先に成功があるのだと感じました。私自身も、残りの学生生活は就職活動を見据えながらも、自分が今まで取り組んできたことに対する熱意を忘れず、とことん向き合って行きたいと思います。

以上のように、SJECは非常に貴重な経験をさせてくれるプログラムなので、応募を検討されている方は是非チャレンジしてみて下さい。たとえ選考に落ちてしまっても、意志があるなら再挑戦してチャンスを掴み取ってほしいと思います。これから参加する方は、プログラムを通して学んだことや感じたことを一杯吸収して、楽しんできて下さい。